



左：会報の為の講演記録をとる玉澤兄、右は大村牧師

阿佐ヶ谷教会



信友会会報

11月例会(11月24日開催)報告

「使徒言行録の学び」(第12回) 大村 栄 牧師

—新約聖書 使徒言行録 第12章—

◆役員(会長、副会長)の選出方法の提案について◆

早いもので12月も半ばとなりました。12月は1年の終わりでありますが、私たちクリスチャンにとってはクリスマスを迎え、新しいスタートを切る時期でもあります。イエス・キリストの誕生を心から祝いイエス様を遣わして下さった神様の御心に深い感謝の気持ちを持ちたいものです。そして新しく迎える1年を大切に、前向きに過ごして行こうではありませんか。

さてこの会報では、11月に行われた信友会例会の大村栄牧師による使徒言行録の学びと、その例会で提案された今後の会長選挙の方法の見直しについての意見をまとめました。次回例会ではこの提案について更なる討議も予定しております。皆様のご意見をお聞かせください。次回例会は1月26日です。ぜひご出席ください!

「聖霊行伝をたどる—使徒言行録の学び—」第12章 大村 栄 牧師

前回の第11章後半の記事に、パレスチナ地方にひどい飢饉が起こり、アンティオキアの教会がユダヤに住む兄弟たちに援助をすることになり、バルナバとサウロに援助物資を届けるよう依頼したことが記され、二人はエルサレムにきています。

ヤコブの殺害とペトロの投獄

第12章では、ヘロデ王が教会の迫害を始め、ヨハネの兄弟ヤコブを捕らえ剣で刺し殺します。ここでのヘロデ王は、イエス誕生の時のヘロデ大王の孫のヘロデ・アグリッパ1世です。また、このヤコブは、ゼベダイの子ヤコブで、大ヤコブと呼ばれています。聖書には、4人のヤコブが登場し、旧約では創世記のヤコブ、後に「イスラエル」と言われイスラエル12部族の父になります。

新約では3人のヤコブが登場し、この大ヤコブと、アルファイの子ヤコブ(小ヤコブ)、そしてキリストの兄弟ヤコブです。このヤコブは後にふれます。今日登場するヤコブは、後の9世紀に北スペインのサンチャゴ・デ・コンポステーラで遺体が発見され、そこはキリスト教の三大聖地の一つとなり、現代でも巡礼の地になっています。この時代は、イスラムから領地を奪還するレコンキスタ(再征服運動)の時代で、ヤコブの遺体発見はこのための大きなモチベーションになったと言われます。

ヘロデ王はこの殺害がユダヤ人に喜ばれるのを見て、さらにペトロを捕らえます。そして過越祭の後にペトロを引き出すため4組の兵たちに監視させます。この危機的状況のなか、教会はひたすらペトロのために祈ります。これは教会がなすべき大切な姿勢です。東日本大震災の時にも教会はまず祈ることから始めました。

(次ページへ)

信友会例会開催予定：次は1月26日です(船本弘毅先生による使徒言行録13章の講演を予定しています)

信友会新年の集いのお知らせ：1月11日(土)午後3時より讚美歌合唱練習と新年歓談の集いを行います。ご参加ください



ペトロ、牢から救い出される

引き出す日の前夜ペトロが眠っていると、主の天使がそばに立ちわき腹をつついて起こし「急いで起き上がりなさい」と言います。すると2本の鎖が外れ、次に「帯を締め、履物を履きなさい」と言い、さらに「上着を着てついて来なさい」と促し牢から出します。ここでの主の天使は、クリスマスに羊飼たちに現れて幼子を見にベツレヘムに行くよう促し、キリストの受難後に墓の前に現れマリアたちにイエスが復活したことを言って、弟子たちに伝えるように促しました。天使は神ではなく、神のみ業を述べ伝え、行動を促す存在です。

ペトロは、天使の促しを素直に聞いて牢を出ますが、9節で天使の行いが現実とは思えず幻を見ているようだったと言います。そして、二つの門を出ると天使は姿を消します。ここでは守護天使のようではなく、必要な時に現れ役割を果たして姿を消しています。11節で、ペトロは我に返って、「今初めて分かった。神が天使を遣わして、ヘロデの手から、ユダヤ民衆の全てのもくろみから、私を救い出してくれたのだ」と言います。

ペトロは、それから、マルコと呼ばれるヨハネの母マリアの家に行きます。そこでは大勢の信者がペトロの無事を祈っていました。この家は、イエスの最後の晩餐が行われ、使徒言行録2章の聖霊降臨のあった家であると言われています。ペトロが戸をたたくと女中のロデが現れ、ペトロの声だと分かると喜びのあまり戸も開けずに奥へ行ってペトロが戻ったと告げます。人々はロデの話信用せずに、あなたは気が変わったのか、ペトロの守護聖人が現れたのではと疑います。あんなにペトロの解放を祈っていた人たちが信じなかったことは、祈りが応えられることを信じない人間の弱さを表しています。

ペトロがさらに戸をたたいたので、彼らが戸を開けるとペトロがいたので非常に驚きます。ペトロは皆の驚きを制して、主が牢から出してくれた次第を説明して、このことをヤコブとその兄弟に知らせなさいと言ってそこを離れます。ここで言うヤコブはイエスの兄弟のヤコブです。ヤコブは教会の中でも有力者であり、ここからペトロに代わってエルサレム教会の最高指導者になります。この時初代教会の世代交代が行われ、使徒言行録15章にあるエルサレムやアンティオキアの教会が参加して行われるエルサレム会議をヤコブが取り仕切っています。

夜が明けると兵士たちの間でペトロがいないことで大騒ぎになります。ヘロデ王は、ペトロが見つからないので、番兵たちを取り調べた後に死刑にするように命じてカイサリアに去ります。

ヘロデ王の急死

ヘロデはフェニキア地方のティルスとシドンの住民にひどく腹を立てていました。住民が和解を申し出たのは、彼らの国が王と食料の交易をしており、何らかの理由でヘロデが経済封鎖をしたからだろうと思われまます。ヘロデが演説すると集まった人々が「神の声だ。人間の声ではない」と称賛すると、たちまち天使が現れてヘロデを打ち倒しました。ヘロデの傲慢な、神に栄光を帰さない態度が神の怒りを買ったのです。彼は蛆に食い荒らされる形で息を引き取っています。バルナバとサウロは、神の言葉がますます栄えるのを見て、マルコと呼ばれるヨハネを連れてアンティオキアに帰ります。そして、第13章から1回目の宣教旅行へと出て行きます。

(文責：玉澤武之)

◆ 役員（会長、副会長）の選出方法の提案について ◆

ここにまとめた文章は、表記議題について現信友会荻原会長と寺嶋副会長から出された文章を基に来年の1月例会、2月総会への討議資料としてまとめたものであります。

この会長、副会長選出方法に対して改定を求める意見は、既に今期の総会（2013年1月開催）で寺嶋副会長より具体案とともに提案がされていた。ただその時点ではその場の決議を求めるといふよりあくまでも現状での問題点を明らかにする事と、今後の検討要請に留まった。

そこで指摘されたポイントは、①会長（副会長2名も）が総会に出席した約30名で決められてしまっている事。②その3名はその総会に出ていた会員の中からほぼ決まっている事。③つまり総会に出席していない会員は選挙権も（推薦を含めた）立候補も出来ない状態になっている。というものであった。またそこで一例として提案されたものは、全信友会員の名簿を事前配布しそこから選出する方法で、それにより総会の出欠に関係なく選出出来る事と、事前に名簿を配布する事で会長選出に対する参加意識を広め、願う事なら総会、例会への参加も促す事に繋がるというものであった。

この提案については総会の議題としては取り上げられず、今後の役員会と例会で検討するとされ、継続審議項目となったのである。

参考までに役員を選出について信友会の会則では、以下のように記載されている。

第6条（役員を選出）：本（信友）会は前年度内に次期会長、副会長を総会において選出する。その他の役員は会長がこれを委嘱する。

第10条（変更）本会則の改正は、総会において行う。

つまり、現会則では役員は総会において選出され決定される為、総会に欠席した場合は選出権を失う事としている。さらにこの改定は総会でのみなされるとしている。

今年1月の総会で継続審議となったのは、①総会以外での選出となる事。②会則変更の必要性も考えられる事。③提案がまだ役員会で討議されたものになっていないなどが主な理由であった。

さて、ここから今回の提案に入りたい。内容については11月例会で話し合わせ、一部討議された事柄のまとめとなる。

1) 2013年度の締めくくりとして、来年2014年2月23日に信友会総会が開かれるが、その中の議題として「役員を選出方法」についての提案が出される予定である。

2) 信友会は毎月定例会を開いているが、その出席率は全会員の20%弱（約30名）であり、総会もほぼ同数の出席者により役員選挙を行っている。

3) 現在の役員選出方法は、当日の総会出席者の無記名投票により最多得票者を会長候補としその場にて本人の承諾を得て会長と決定する。同様に副会長2名を選出し、その3名が次年度の会長、副会長に決定する。他の役員はこの3名により委嘱される。という方式を採用している。

4) この直接選挙により、いままで特に問題になった事実はないと思われるが、①当日の総会出席者しか選挙権がない事（票数の減少と基本的に出席者から選ばれるので選択肢が限られる）。②会長・副会長が唐突に決まる事（本人に取って心構え、準備期間がない）。等の課題もあった。

5) しかし、例会出席に無関心な人や礼拝にも来られない様々な事情を抱えた人を候補者に挙げるのは現実的ではないし、そのような人を選出するのは無理である。という意見も多数ある。

（次ページへ）

(前ページより)

以上の経過を踏まえ、役員会として、信友会の役員選出につき今までのやり方を変えるのか、変えないのかの意見も含め今後この案件を検討することと致します。来年2月に控える次期総会時の役員選出を新方法で行えるかどうかについては、場合により会則変更の必要性も審議する事となる為、どの程度の新案がまとまるかは未知数です。ただこれまで指摘された、①当日の総会出席者しか選出権がない事。②会長・副会長が唐突に決まる事。この2点に対応する選出方法は次回に「試行」という形も含め実施可能な方法を検討していきたいと考えています。

現在いくつかの具体的提案も出てきています。しかし、どんな方法で行うかは会員の皆様に提案し理解を得て行うべきであり、そしてそれは会則に沿ったものである事が原則です。そしてその会則を変える場合はしっかりとした理由と、調査に基づいた理念が伴うべきであることは役員全員理解しています。

最後に信友会員は教会員全男性の8割を占め、現在20歳代から90歳代までの幅の広い年齢層で構成され、様々な教会の活動の中核となり、ほぼ全員が現在または過去に社会との繋がりを持って多様な経験を持っている人たちです。それ故一人一人が教会における交わりのあり方に対して様々な考えや希望を持っているはずで

す。今後の信友会の姿を模索し、企画し、実行出来る会長を含めた役員が存在はますます重いものになって行くでしょう。しかし神の家族の集まりという事は決して変わる事はないでしょう。

どうかこれらの事情をご理解いただき、今後例会などへの積極的な参加と、提案されていくであろう「新案」について活発なご意見をお寄せください。

役員一同

信友会 2013年度 第6回 例会・役員会記録

日時：2013年11月24日 12:30 ~ 15:00 (例会後役員会) ~ 17:00

場所：祈祷室 (例会出席29名、役員会8名)

1. 11月例会

(1) 大村栄先生に使徒言行録12章の聖書講解をしていただいた。

ヘロデ王がヤコブを剣で殺し、ペトロも投獄されたこと、しかし主の天使が来てペトロは救い出し、ヘロデ王を打倒したこと、これらの出来事の後、パウロの第1回目の伝道旅行がはじまることなどを解説していただいた。

(2) 会員消息 ()

(3) 10,11月誕生月を迎えた会員を祝った。

(4) 震災支援報告 米販売、PC支援、8Box。また12月に柿販売予定。

(5) 信友会役員選出方法について話しあった。次号会報(12月15日予定)にも案を掲載し、継続検討。

(6) ミニワークを実施 会堂外周りの清掃、ガラス拭きを行う。

2. 役員会

(1) 会計報告(概算) 今年度の見通しについて会計担当(杉野兄)から報告。

(2) 役員、会長福会長の選出方法について、信友会活性化について議論した。(継続)

(3) 葬儀奉仕依頼の連絡 役員、長老に加え、旧役員、長老にも依頼する。

(4) 今期1月、7月に行った通常例会とは別の会員の交流を目的とする集いを来年も行う事に決定した。

次回は今年1月に開催した男性4部合唱練習とその後の歓談会を来年1月に行う事にした。

(5) 次会1月例会：2014年1月26日(日) 礼拝堂 (ホールはシオン会が使用の為)

テーマ：「聖霊行伝をたどる—使徒言行録の学び—」第13章—

講師：船本 弘毅 先生

司会：日高 好男

以上

(記録：荻原雄二、玉澤武之、写真：小笠原敦久、会報レイアウト：小野淳二)